

12月。思えば5年前、雪とはこんなに降るモンなのかと驚いたのです。
 それが今、スーパーでレジを並びながら、ガラス越しに、深々と斜めに降る雪を見て雪国旅情に浸かる始末。
 ほっかむりをしてレジを並び、ばあちゃんの姿、
 子供の頃に、よく食べていた乾燥芋のパッケージと同じデザインです。

我ながら楽観的、前向き、変わり者なので、毎年、冬になると、雪が嫌だとか、今年が多いとか、話すことに退屈してしまふ。5年でこんな境地に達します。
 雪なんか大した事ない、降ってないと思う、寒いから雪が降る…
 と、色々紛らわしてみたり。でも、寒いんだよな、雪国は。

こんな風に、変えようにも変わらない。普遍的なんだけど、受け入れ難いことはありますね。
 今回はたくさん文句を書いてみます！

仕事>時間>人=毒

ずいぶん前から、ニュースで大企業の社員が過労死した事件が話題になっています。
 少し前には、会議に遅れそうだから、電車を降りて線路を歩く社員の事件が。
 どちらも、気の毒な事件です。
 何が気の毒か？それは、その理由を察してしまう社会全体が気の毒です。

憧れの大企業でバリバリ働き、名誉とか、地位とか、出世とか、自分の存在価値は仕事で決まる世界。
 先輩や上司に言われた仕事、押し付けられた仕事、何故かやることになった仕事、
 それらをこなせない、出来ないことは自分の評価や価値を下げることに直結すると思うのか？
 大企業に入社するような人は、責任感や任務遂行能力も高いはず、
 ダメな自分、弱い自分、出来ない自分を他人に、自分にも見せられない。
 そして、仕事が出来てしまうから、色々まわってくる。でも評価されない。
 今回の事件を知る限り、上司がストレスだったようですが。

このような話こそ「あとの祭り」というのです。
 事実、人の命が失われてしまったのですから。
 本人でなければ、他人というのは、どうにでも考えられるんです。
 「たかが仕事で、嫌なら辞めればいい」
 「嫌な事、間違っている事は主張すべきだ。事前に対策があったはず」
 しかし、そんなことは、誰だって知ってるわけです。でも、そう出来なかった。。。毒のよう。

電通(言っちゃった…)のために生まれて、会社のためなら死んでもいいという人はいません。
 むしろ、いてはいけない
 でも、会社や組織のなかで人間関係を続けていると、時として、この狂った考えが、ふと、
 通り風のように、頭をよぎる瞬間があること、、、多くの人は知っているのではないのでしょうか？

「たかが、仕事関係で悩んでいるからって死ななくてもいいじゃないか？」
 >でも、事実、会社で働いてるだけで病んで死んでしまう人がいる。
 「たかが、会議に遅れるからって、線路歩く事ないじゃないか？」
 >でも、会社に遅れたくないから、線路を歩く人がいる、電車を通わなければならない距離を。
 これは、紛れもない病で毒です。
 このような事件が起きる度、「その病、わからなくもない」感が社会全体に漂っている気がして、
 自分を含め、気の毒でしょうがないんですな。

個人的な意見として、死因に関わった社員、イジメた人、気のきかない人、
 何と表現したらいいかわかりませんが、もっと非難していいと思います。
 非難したところで、被害者が生き返るわけではないですが、その人がいる限り、また繰り返す気がしてなりません。
 イジメや争いが世界からなくならないのと同じです。

大学の頃、中島義道さんという教授の授業は、今でも覚えていることが多くあり、
 当時から何か感じるものがあったって、思春期？ながら考えさせられてたわけです。
 学生経験しかない自分には、何をどうなっているのか？当時は、わからなかったのです。
 その後、社会に出て(?)協力隊など、色々な人に触れ、その当時、何が気になっていたのか、最近、わかりはじめてます。

でも、社会人(?)として日常生活を送る上で、論理的で正しさを求める事は、こういうコラムを書く時しか考えないようにしてます。

それは、社会人(?)として清く正しく、モラルある人間として生きるのが難しくなるからです。

というか、不可能でしょう。人間というのはエゴイスティックな生き物ですな。

[*注 社会、社会人という言葉は、何を指しているのか...昔からわからないので???です]

「対話のない社会…」は良くない。

だとすれば、電通社員の事件も対話があれば…

「○○これ明日までにやっついて」「できません」「なんでだ？」

「これこれこうで、明日までに他にやらなくてははいけないのです」

「上司の言う事が聞けないのか!」「上司だからといって、言う事を聞くわけではありません」

「お前がやらないと、他の人に会社に迷惑がかかるんだぞ」

とまあ、こういうやりとりは対話ではないです。「上司の言う事が…」という時点で、対話は崩壊してます。

要は、上司の言う事は絶対という社風?システム?共通概念?が対話を崩壊させて、問題ばかり生む、毒々しい社会にしていると思います。

理不尽なことに嫌だと言えるために、勇気が必要なわけではありません。

なぜ、無理だと思うような仕事でも引き受けてしまうのか?それは、その方が楽だからです。

そもそも、無理難題を要求する上司は、その程度のクオリティーですので、話し合う、対話をする、

そんな高等なやりとりでなく、簡単に言えば、かかわりたくない面倒な人なわけです。

だから、社会とか会社の中で、その風潮に染まり、無理難題でも引き受けてしまう部下は、

対話を避けるという点ではズルイけど、賢いのです。

話し合えば分かり合える、ではなく、話さなくてもわかるでしょ?という社会が病の原因なんじゃないか。

そして、そもそも上司をたてるという暗黙のルールがそうしてるんじゃないか。

絶対的に変わらない上下関係がある限り、立場や環境は変わらないでしょう。

最近、気づいたことにサラリーマンは勤続年数という評価指標が重要であるとわかりました。

なぜそんな事に気づかなかったのか?僕は基本的に実力主義者だからでしょう。

学生時代の部活なら、野球でもサッカーでも学年関係なく上手い人が試合に出るべきだと思う人です。

人には能力差があるから、仕方がないと思うのです。

けれども、試合に出れなくても3年間何かを続けることには価値がある。そう思います。

その価値を見出せるのは本人だけです。

試合に出れたから価値があるのではなく、あくまでも、チームとして試合で勝つために選択したわけで、人の価値を決めることではないのです。

ガンガン書きましょう。

金持ちだから幸せなのではない。勉強ができるから賢いわけではない。上司だから偉いわけではない。

プロだから上手いわけではない。大人だからしっかりしているわけではない。大企業に就職したから未来が明る

いわけではない。

何かの記事でも書いたかもしれませんが、このような概念の根底には日本の徒弟制度があると思います。

仕事というのは上から下へ、教える、伝授する。その関係性から生まれる仕事がある。

そうでなければ上手いかない仕事がある。

徒弟制度が悪いわけでもなく、会社で働いただけなのに、なぜこんなにもややこしい話になるのか?

僕はいつもこう思います。人間というのは基本的にエゴイストで根本的には分かり合えない。

「何でも話し合える、風通しの良い社会」「相手の立場になって考えられる、思いやりの社会」は存在しない。

その前提の上で、会社という組織の中で、多く人が働くためにルールが必要。

ルールをもうければ、対立することなく、エゴな部分を避けられる。

ルールというのはある種の強制力で抑止力。理由とか、個人的な意見とか対話とか必要ない。

ルールがなければ仕事はスムーズにすすまない。そして、社会には、組織には上下関係がある。

上から下へ流れるフローがあり、下から上へは逆向きのベクトルとなる。

ルールというのは組織化するためのもの。組織化というのは物事をスムーズにするためにある。

ルールというのは、あらゆる人の方向性を一つに束ねるもの。

そして、組織化を好む人、好まない人が同じ組織で働く。

この2者が対立する場合、前者が優勢となる。

簡単に言えば、会社人間は会社にいるなら生きやすいという事です。

さらに、会社とは教育機関でないから、個性とはパーソナリティーに理解を示す事や、人としての道徳的概念は問題視されない事が多い。

全て、組織的な解釈のうえで、利害関係を生んでいるわけです。

いつまでも、頭に残る言葉があります。

テレビを何気なく観ていても、やたら共感してしまう言葉です。

ある職人が、鋭利な刃物や道具に関して、子供は危ないから使わないほうがいい、しかし、どう教えるべきかという問いに

>「危ないものだから使ってはいけない、ではなく、危ないものだからこそ気をつけて使え」

学校でイジメられている学生が、学校に行きたくないという問いに

>「学校はイジメられに行くところではないから、その学校は行かなくていい」

僕は、なんて真っ当な事を言うんだらうと思いました。

危ないからダメだと言われても、使ってみなければ、何が危ないのかわからない。

その道具を使わなくては仕事が出来ないなら、避けては通れない過程。

つまり、気をつけて使うしかないわけです。逆に、気をつければ危なくない。そうする技能が必要です。

学校とは勉強をする場所です。しかし、イジメられて勉強が出来ないなら、そこは学校ではない。

個人的な意見ですが、イジメというのは大罪だと思います。

「イジメた側は、イジメられた側の気持ちはわからない」

「イジメられた側は、イジメた側の気持ちはわからない」

わかりあえないエゴイスティックな人間関係で、不の要素しか生まない。それがイジメです。

鋭利な刃物で指を怪我したイタミを知っていれば、刃物と上手な付き合いをしようと気をつける。

イジメられたイタミを知っていれば、イジメの醜態さがわかる。

しかし、世の中からイジメはなくなる。大人も子供も。他人のために生きることは出来ないのです。

人は生きてる以上、社会や人間関係、組織や集団、利害関係、エゴイズム、などなど

人間が生み出す様々な普遍的な事象から逃れられません。

でも、そんな中で多くの人がやっていけるのは「その先」があるからです。

イジメられても、家に帰ればわかってくれる家族がいる。

会社が嫌でも、他の生き方をしてもいい。

でも、「その先」が見つけられなければ、誰だって追いつめられてしまう。

会社や学校が全てではない、他人との付き合いの中で調和を保つバランス感覚が養われます。

朝から深夜まで仕事をする人がいるとします。

僕はその人のことを責任感はあるとは思いますが、偉いとも、すごいとも、見習いたいとも思いません。

むしろ気の毒なのです。そう、毒なのです。

「仕事＝人生＝存在価値」という式は成り立ちません。それぞれ別物なんです。

しかし、この式が成り立つ場合が1つだけあります。それは、一人、孤独、個人、とにかく一人でいる場合です。

孤独でいることは実はとても難しい。社会の中で孤独でいるためには、自分の中に何人もの他人がいて、客観的な視点がなければいけない。そして、良い事でもない。

電通で過労死した人も「こんな仕事やってられん！」と3年くらい世界旅行でもすれば、違う自分がいたはず。

イジメられて亡くなった人も、転校したり、学校でない場所に行けば、きっと違う「その先」があったはずで

社会のくだらない、エゴや普遍的価値観に紛れて、惑わされて、翻弄されて、命を落とすなんて残念すぎます。

「その先」を見つけて素晴らしい人生を送るもよし、「会社なんて！社会なんて！」と中二病な人生を歩むもよ

し、一生ニートで、親に見離されるもよし、どれも生きていないとできません。

「一生ニート??」バリバリ働いている人や常識的な人からしたら、腹立たしい存在でしょう。

でもそれは「自分はこんなに働いてるのに！働かないとは何事だ！」という理由だからでしょうか？

しかし、「一生ニート」というのは実に内向的な苦しみの塊なのです。

「仕事＝人生＝存在価値」の式が成り立たないほど、何も無いのです。それ以前の問題です。

それでも、「一生ニート」はよくないという教訓を与えるために必要な存在です。

「一生ニート＝The End」ではなく、いつでもやり直せます。

失敗したらやり直せばいいんだ、間違えたら謝ればいいんだ、甘えないで、自分を成長させればいいんだ、

努力したらそれなりに出来るんだ、先輩の意見が全てではないんだ、耐えられなくなったら「その先」を探せば

いいんだ、時には嘘ついて逃げていいんだ、自己主張していいんだ、ミスしても死ぬ事はないんだ、

命より価値ある仕事なんてないんだ、ゲームだと思って生活していればいいんだ、そんなに難しく考えなくても

いいんだ、人間関係は時間がたつと変わるんだ、出来ない事は出来ないんだ、やりたいと希望を持っていい

んだ、世の中、基本的に自由なんだ、自分の人生は自分で決めていいんだ。

仕事とは何でしょうか？職業という点を除いて、人(他人)と接点を持ち続ける事である気がします。

社会に存在する以上、絶対に避けられない環境があるなら、その環境は良い方が絶対良い。

ほんの少しの事で、たった一人のことで、その環境が良くなるならば、

自ら行動して、時には大胆に、時には冷静に、そして、時には逃げて、避けてもいいんだと思います。

12月というのは、湿った雪のように、重みのあることを綴る月です。(自分だけ)

今年も、このコラムを読んでくださった方々ありがとうございます。

来年も、再来年も、山形生活を自分なりにお伝えすることが出来たらうれしいです。

それでは、良いお年を！